

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03582

研究課題名(和文) 郷・村名初出データにみる日本中世の民衆社会

研究課題名(英文) Local communities in medieval Japan as seen through the first appearances of the names of townships and villages

研究代表者

三枝 暁子 (Mieda, Akiko)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：70411139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、7世紀～16世紀の日本史史料に現れる郷・村＝「ムラ」の初見年代とその史料を収録したデータベースを作成し、公開・共有するとともに、「ムラ」の地域的特質について解明した。については、全68カ国のうち、23カ国の情報をWEB上で公開している。また作業途中の国のうち、19カ国について公開準備中である。一方については、東北・関東・東海・九州地域について、およそその特質を解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じ、7～16世紀における郷・村＝「ムラ」の初出数と近世村への接続状況が明らかとなることによって、日本の前近代における民衆社会のひろがりとその内実を明確にしていくことが可能となる。現在、日本および世界は、気候変動や経済・社会・環境をめぐる様々な問題に直面し、SDGsの推進に動き出しつつある。ムラの盛衰を、列島社会における様々な地域の特質に照らし明らかにすることによって、持続可能な社会、多様性と包摂性に富む社会とはどのようなものであるのか、見通すことができるのではないかと考える。

研究成果の概要(英文)：The results of this project include 1) the production and publication of a database showing the dates of and sources containing the first appearances townships and villages (mura) in sources from the seventh to sixteenth centuries, and 2) the clarification of the characteristics of mura within different regions. With regards to 1), we have published data online for 23 out of 68 provinces, with preparations underway to publish data on 19 more. With regards to 2), we were able to clarify general characteristics for the Tohoku, Kanto, Tokai, and Kyushu regions.

研究分野：日本中世史

キーワード：古代 中世 郷村 ムラ データベース 民衆 社会 地域

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の古代・中世史研究において、民衆の基本的な生活基盤としてまず注目されたのは、「荘園」であった(中田薫『法制史論集』第2巻、岩波書店など)。これに対し、荘園を貴族的な土地領有の一形態とみなし「郷」・「村」こそが民衆の生活基盤であるとしたのが清水三男である(『日本中世の村落』岩波文庫)。戦地で病死した清水氏の問題提起は、戦後の歴史学界で十分に顧みられることはなかったが、2000年代に入って、荘園村落史・農村史研究の第一人者である大山喬平氏が、荘園を「政治のユニット」として位置づけたうえで、その水面下にある「生活のユニット」としての「郷」・「村」=「ムラ」に着目する必要を説いた。そして、古代・中世における郷・村名の初見年代に着目し、その事例を集積した戸籍簿、すなわち「ムラの戸籍簿」の作成に着手し、『日本中世のムラと神々』(岩波書店、2012年)を出版した。

(2) 研究代表者は、大山氏とともに2009年から「ムラの戸籍簿」研究会を組織し、関西や東海・関東地域の研究者とともに全68か国の「ムラの戸籍簿」の完成をめざすべく各国ごとの「戸籍簿」の作成に着手している。2014年度から2017年度には、基盤研究(B)「郷・村のデータベース作成にみる日本中世の地域社会」にとり組み、2018年に完成した国の「戸籍簿」を「ムラの戸籍簿」データベース:

<https://www.dr.fh.jp/mura/index.php?title=%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>として公開した。また同じく2018年に、データベースの作成の過程で見えてきた各郷・村や地域の特質を論集としてまとめ、思文閣出版から、大山喬平・三枝暎子編『古代中世の地域社会「ムラの戸籍簿」の可能性』として出版した。

(3) こうした研究により、列島全体において郷の初出が8世紀・14世紀・16世紀に多いこと、とくに東国において14世紀・16世紀の郷の初出が顕著であること、村については14世紀以降、東西を問わず初出数が増えること、16世紀に増える理由として太閤検地の影響が考えられることなどが明らかとなった。このような読み取りの成果をなお確実なものとし、なおかつ東西の違いなど地域的な特質をより詳細に明らかにするためには、「ムラの戸籍簿」の作成をさらに推進していく必要があり、本科研を申請した。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、郷・村=「ムラ」の初見年代とその史料を収載したデータベース(「ムラの戸籍簿」)を作成し、公開・共有すること、及びその作業を通じ、「ムラ」の地域的特質とその普遍化=「国家」形成の過程について解明することにある。前近代とりわけ古代・中世の「ムラ」の内実を明らかにすることは、「ムラ」固有の史料の残存状況の乏しさにより容易でない。しかし諸史料から「ムラ」の初出事例を検出し数値化していくことにより、列島規模で展開するムラの生成・消滅の痕跡をたどることが可能となる。

(2) こうしたムラの盛衰には、民衆世界における生業と祭祀の形成のほか、政治史の展開や自然災害の発生などの要因も深く関わっている。市町村合併や災害等、現代社会のムラは様々な危機に直面している。消滅することなく持続したムラの姿が具体的に明らかになることによって、こうした危機を多少なりとも打開できるのではないかと考える。

3. 研究の方法

(1) 研究の目的に対応するものとして、郷・村初出史料の検出、およびそれをもとにした「ムラの戸籍簿」の作成を行った。またに対応するものとして、「ムラの戸籍簿」によって判明する、各国や地域の郷・村の特質についての検討を行った。

(2) 具体的には、年に2~3回、「ムラの戸籍簿」研究会を開催し、
・ にかかわる研究報告をプロジェクトメンバーに行ってもらい、成果と課題を共有した。「戸籍簿」の作成にあたっては、「自治体史 資料編」などを収集のうえ総めくり作業を行い、基本的なデータを作成しつつ、順次補足的な収集作業を行った。「誰でも利用できる客観的かつ簡潔な表を作成する」ことを基本方針とし、a. 郡ごとの郷・村名(『倭名類聚抄』の記載の有無も明記) b. 村名・郷名の初出年月日、c. 典拠史料の内容と出典、d. 近世村への接続の有無、e. その他特記事項、を採録した。

(3) 研究の目的において、巡見調査は重要な研究方法となる。新型コロナウイルスの流行によりほとんど実施できなかったが、2019年3月に骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会「続骨寺村一千年の歴史を語る」(主催:岩手県一関市博物館)に参加のうえ、骨寺村荘園遺跡の巡見を行うことができ、東北地域のムラを理解するうえで参考となった。

4. 研究成果

(1) 本科研申請時には、次頁の図1の地図上で色付けした国の「戸籍簿」の作成に着手しており、うち、山城・近江・大和・三河・阿波・上総・下総・下野・上野・常陸・美作・備前・備中・紀伊・伊予の15か国についてはほぼ完成しているという状況であった。本科研によって、その後も作成作業を進め、図2に示したように、2024年3月現在で29か国のデータが完成し(黒色)うち23か国について、WEB上で公開している(残る6か国は公開準備中)。また作業が概ね完了し、今後公開準備に入るものは13か国ある(濃灰色)。さらに、作業を継続中の国や新たに作業を始めた国もある(薄灰色)。



図 1

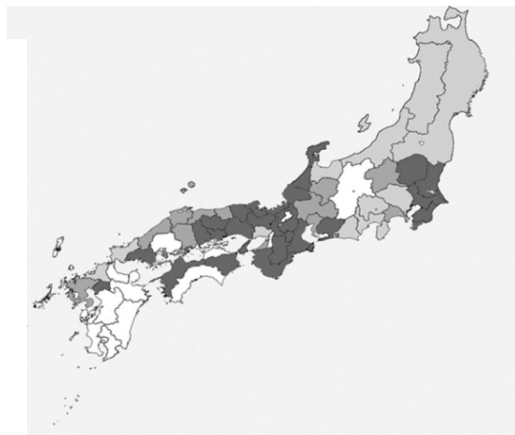
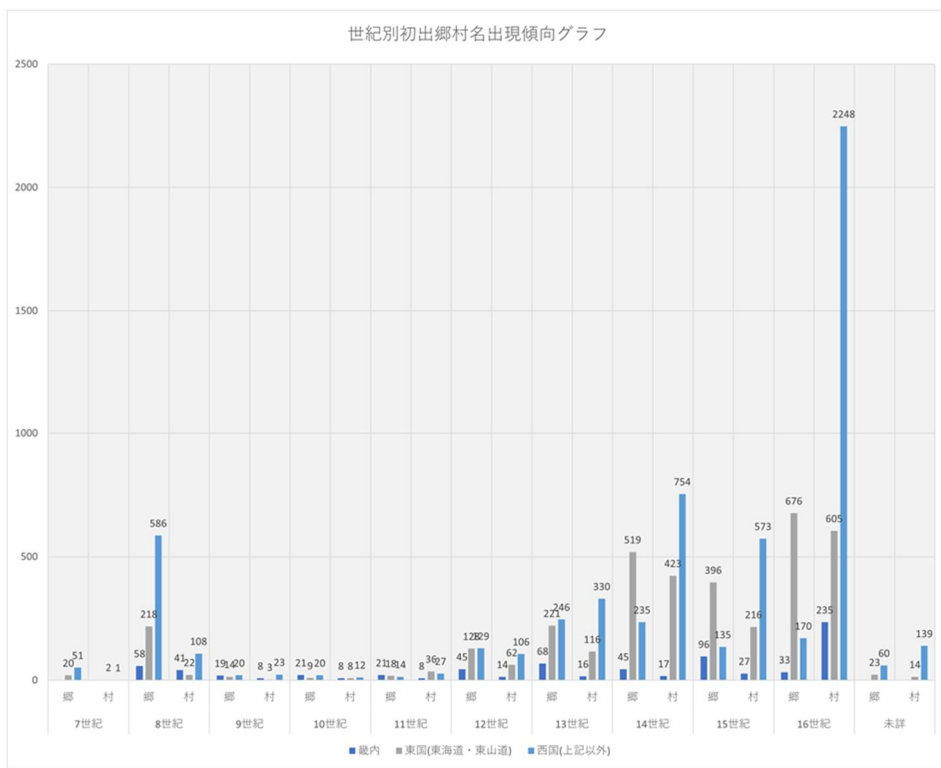


図 2

(2)世紀別郷村の出現傾向を畿内(左)・東国(中央)・西国(右)の3つのブロックにわけてまとめたグラフを作成してみると(畿内=2か国(山城・大和)、東国=11か国(伊賀・伊勢・志摩・参河・武蔵・安房・上総・下総・近江・上野・下野)、西国=25か国(若狭・越前・越後・加賀・能登・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隠岐・丹波・美作・備前・備中・周防・紀伊・淡路・阿波・伊予・筑前・筑後・肥前のデータである)、いずれの地域も8世紀に郷の出現事例が多く、とりわけ西国の郷の検出数が多いことが判明する。その後14世紀になると、東国では郷の初出数が、また西国では村の初出数が増加する。そして16世紀には、いずれの地域においても郷・村の初出事例が増えていることを改めて確認することができた。

(3)一方、列島においていわゆる「辺境」にあたる九州地域については、「国郡郷」という地域



秩序のタテの系列が史料上見出しにくいことや、郷の規模が大きいことなどが判明しつつある。また東北地域についても、特に陸奥国については8~9世紀に「村」の初出事例が多くみられ他地域と異なる傾向にあること、「国郡郷村」という系列よりむしろ「国郡村」と

いう系列が優位であり、郡に直結するかたちで「村」が現れやすいことなどが明らかとなった。

(4)2019年8月に、東京大学本郷キャンパスにて「ムラの戸籍簿」データベースの紹介と2018年に公刊した前出『古代・中世の地域社会』の書評報告から成る公開シンポジウムを開催した。本シンポジウムを通じ、「戸籍簿」の意義を村落史研究の中に積極的に位置づけ、様々な研究者に理解していただく必要のあることを痛感したため、「ムラの戸籍簿」研究会の例会を通じ、先行する村落史研究論文に学ぶとともに、「戸籍簿」の分析によってどのような地域社会像が浮かび上がるのか、郷・村=ムラはどのような史料に現れやすいのか、議論を深めた。また、国ごとの郷・村の特質や、東北・関東・東海・畿内といった地域ブロックごとの郷・村の特質についても検討を進めた。2024年に、その成果をまとめた新たな論集を公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 三枝暁子	4. 巻 46
2. 論文標題 身分制から見た中世社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 84-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 162
2. 論文標題 文献からみた古代・中世の寺院	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜県文化財保護センター調査報告	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 15
2. 論文標題 中世民衆思想の探究 木札・像内文書・仏書を例に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 29-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 13
2. 論文標題 勸進帳・起請文・願文	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 111-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鎌倉佐保	4. 巻 69
2. 論文標題 「開発領主」と荘園の形成 荘園をどう教えるか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史海	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田友広	4. 巻 909
2. 論文標題 足利直冬の京都進攻とある文書の行方	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 94
2. 論文標題 書評 佐藤亜聖著『中世都市奈良の考古学的研究』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良歴史研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司	4. 巻 910
2. 論文標題 足利義氏の三河守護補任をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司・辻極侑衣	4. 巻 26
2. 論文標題 帝塚山大学所蔵の文明八年十一月二日大法師行清寄進状 呉田吉田家「聆涛閣」旧蔵文書の紹介	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 奈良学研究	6. 最初と最後の頁 33-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端泰幸	4. 巻 39
2. 論文標題 近世本願寺正嫡論の構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大谷大学真宗総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鎌倉佐保、伊藤哲平	4. 巻 518-9
2. 論文標題 紀伊国阿豆河荘とその史料 (続篇) 高野山金剛峯寺の旧領回復訴訟をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京都立大学人文科学研究科『人文学報』	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司	4. 巻 48
2. 論文標題 鎌倉後期・建武政権期の戦功認定 二重証判を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 29-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司	4. 巻 677
2. 論文標題 赤松円心の建武政権離反	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 177-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司	4. 巻 69巻1号
2. 論文標題 「相良家文書」の將軍家政所下文	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝林	6. 最初と最後の頁 121 - 135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部光真	4. 巻 866
2. 論文標題 書評と紹介 窪田涼子著『中世在地社会の共有財と寺社』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 96 - 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 52
2. 論文標題 日本中世の即位灌頂 アジア仏教史と民衆仏教史の狭間 密教学研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 密教学研究	6. 最初と最後の頁 1 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 16
2. 論文標題 Manifestation of People's Will in Medieval Japan: Modality and Thought	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Relacoes entre a Iberica Relacoes entre a Peninsula eo Japao : do sec. aos dias de hoje	6. 最初と最後の頁 185 - 195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌倉佐保・伊藤哲平	4. 巻 517
2. 論文標題 紀伊国阿豆河荘とその史料(後篇) 建治相論の再検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報(東京都立大学人文科学研究科)	6. 最初と最後の頁 1 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三枝暁子	4. 巻 122
2. 論文標題 16世紀戦乱下の北野社宮仕の生活と交流 能哲の「日記」から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 205-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 11
2. 論文標題 歴史の復元と文化の創造 ウズベキスタンと日本のつながり	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 177-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司	4. 巻 43
2. 論文標題 史料紹介 帝塚山大学所蔵の建長二年十二月十五日寂心田地売券	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌倉佐保	4. 巻 15
2. 論文標題 日本における武士の発生・武家政権の成立と荘園制	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三枝暁子	4. 巻 678
2. 論文標題 フィールドワークで探る中世—西京の歴史と現在—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 4-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上川通夫	4. 巻 42
2. 論文標題 大般若経 附 経箱・経櫃	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化財調査報告 福井県教育委員会	6. 最初と最後の頁 42-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西田友広	4. 巻 127-8
2. 論文標題 法諺「訴え無くば、検断無し」の再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田卓司	4. 巻 50
2. 論文標題 観応の擾乱期の恩賞宛行	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化史研究	6. 最初と最後の頁 145-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 銘文と仏書からみた中世の民衆
3. 学会等名 中世地下文書研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 日本中世民衆思想史の歴史的位罫 比較と連動の世界史
3. 学会等名 国際日本文化研究センター研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井筒康人、加藤昌生、上川通夫、河西秀哉、廣瀬憲男、堀田慎一郎
2. 発表標題 合評会・歴史学研究会編『コロナの時代の歴史学』
3. 学会等名 名古屋歴史科学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 歴史と民衆の発見 黒鳥村文書は問いかける
3. 学会等名 いずみの国歴史館黒鳥村文書展示記念講演会（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 大府延命寺所蔵『大般若経』と中世の地域づくり
3. 学会等名 日本福祉大学知多半島総合研究所・地域を学ぶ歴史講座（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 西都市麟祥院所蔵大般若経調査報告へのコメント
3. 学会等名 科学研究費基盤研究(C)「中世日向国の仏教文化に関する総合的研究」（代表関周一）研究報告会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 中世の地域社会と宗教 仏像から出てきた古文書を手がかりに
3. 学会等名 海部歴史研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 西田友広
2. 発表標題 The Lord-Retainer Relationship of Warriors in Early Medieval Japan
3. 学会等名 国際シンポジウム「Strong Asymmetries in Social Relations Compared:The Mamluk Sultanate, Medieval Japan and Beyond（国際学会）」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 服部光真
2. 発表標題 書評 佐藤亜聖著『中世都市奈良の考古学的研究』
3. 学会等名 書評会 佐藤亜聖著『中世都市奈良の考古学的研究』（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鎌倉佐保
2. 発表標題 「開発領主」と荘園の形成 荘園をどう教えるか
3. 学会等名 東京学芸大学史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 Possibilities of Mutual Understanding for "New" Culture : A Perception of The Historical Relations between Uzbekistan and Japan (「歴史の復元と文化の創造 ウズベキスタンと日本のつながり」)
3. 学会等名 ウズベキスタン共和国・ユネスコと共催国際学会「有形および無形文化遺産の保存：現在の問題とそれに対する戦略」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 日本中世仏教と民衆思想 ユーラシア・東アジア・列島諸地域
3. 学会等名 国際日本文化研究センター・共同研究会「比較のなかの東アジアの王権論と秩序構想 王朝・帝国・国家、または、思想・宗教・儀礼」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 日本中世の即位灌頂 アジア仏教史と民衆仏教の狭間
3. 学会等名 日本密教学会大会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花田卓司
2. 発表標題 鎌倉末～建武期の戦功認定
3. 学会等名 鎌倉遺文研究会第253例会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 服部光真
2. 発表標題 中世寺院の「境内」と村
3. 学会等名 鎌倉遺文研究会第254例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌倉佐保
2. 発表標題 日本における武士の発生と武家政権の成立
3. 学会等名 メトロポリタン史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田友広
2. 発表標題 材木の生産・流通と領主
3. 学会等名 第112回歴博フォーラム「中世益田の世界」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三枝暁子
2. 発表標題 フィールドワークで探る中世—西京の歴史と現在—
3. 学会等名 日本史研究会大会全体会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上川通夫
2. 発表標題 中世禅宗史と列島社会 書評・斎藤夏来『五山僧がつなぐ列島史』
3. 学会等名 名古屋歴史科学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 服部光真
2. 発表標題 大和国靈山寺所蔵寄進札の史的性質
3. 学会等名 第9回地下文書研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西田友広
2. 発表標題 武家の王権と文字
3. 学会等名 「Herrschaft im Spiegel der Geschichte. Die Chronik Azuma kagami (Spiegel des Ostens) / 『吾妻鏡：歴史記録に映る支配の諸相』」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 春田直紀
2. 発表標題 惣村の環境デザイン ムラのなかの森づくり
3. 学会等名 新琵琶湖学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計26件

1. 著者名 三枝暁子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 197
3. 書名 日本中世の民衆世界 西京神人の千年	

1. 著者名 志賀節子、三枝暁子、高木純一、永松圭子、辰田芳雄、永山愛、松井直人、長崎健吾、石川美咲、馬部隆弘、伊藤大貴、吉永隆記、川岡勉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 214
3. 書名 日本中世の課税制度 段銭の成立と展開	

1. 著者名 重田みち、外村中、水口拓寿、西谷功、神津朝夫、田中健一、柳幹康、福谷彬、稲本泰生、高階絵理加、宮崎法子、井上治、今枝杏子、成田健太郎、王孫函之、佐々木孝浩、河野貴美子、古勝隆一、真柳誠、上川通夫、呉孟晋、陳佑真、菊地暁	4. 発行年 2024年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 512
3. 書名 「日本の伝統文化」を問い直す	

1. 著者名 高木徳郎、佐伯智広、守田逸人、鎌倉佐保、佐藤雄基、似鳥雄一、赤松秀亮、木村茂光、鈴木哲夫、永沼菜未、戸川点、山田仁生、土山祐之、伊藤哲平、高橋敏子、前田徹、高橋傑、清水亮	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 323
3. 書名 荘園研究の論点と展望－中世史を学ぶ人のために	

1. 著者名 戸川点、渡辺滋、樋口州男、中込律子、鎌倉佐保、服藤早苗、関根淳、木村茂光、櫻総太郎、皆川雅樹、小倉慈司、福島正樹、坂内三彦、竹内光浩	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小径社	5. 総ページ数 312
3. 書名 平安時代はどんな時代か 摂関政治の実像	

1. 著者名 新井浩文、伊藤一美、五味文彦、落合義明、山野龍太郎、稲葉継陽、今野慶信、鎌倉佐保、齋藤慎一、小野一之、木村茂光、伊藤寿和、渡辺美彦、西ヶ谷恭弘、林貴史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 382
3. 書名 旧国中世重要論文集成 武蔵国	

1. 著者名 西田友広	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 222
3. 書名 16テーマで知る 鎌倉武士の生活	

1. 著者名 松園潤一郎、三枝暁子、藤井崇、平井上総、久保健一郎、水野智之、小池勝也、銭静怡、河内将芳、田中尚子、菅原正子、川戸貴史、則竹雄一、生駒哲郎、西川広平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 289
3. 書名 町・戦国時代の法の世界	

1. 著者名 永村眞、三枝暁子、石田浩子、佐藤亜莉華、姜錫正、藤井雅子、関口真規子、井上清子、高橋恵美子、高山有紀、坪内綾子、西弥生、高山京子、小谷量子、榊原史子、矢野立子、飯田晶子、中田愛、三浦早織	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 640
3. 書名 中世寺院の仏法と社会	

1. 著者名 伊東貴之、ベンジャミン・A・エルマン、張啓雄、岩本憲司、上川通夫、野村玄、保立道久、佐藤将之、長谷部英一、葭森健介、工藤卓司、深川真樹、井ノ口哲也、豊田裕章、李済滄、古勝隆一、橘川智昭、渡邊義浩、岸本美緒、倉本一宏ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 924
3. 書名 東アジアの王権と秩序	

1. 著者名 西田友広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 784
3. 書名 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 吾妻鏡	

1. 著者名 田中大喜・西田友広・渡邊浩貴・中司健一・清水亮・湯浅治久・高木徳郎・鈴木康之・松田睦彦・貴田潔・村木二郎・荒木和憲・池谷初恵・水澤幸一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る	

1. 著者名 杉山一弥・駒見敬祐・石橋一展・谷口雄太・花岡康隆・亀田俊和・木下聡・田中誠・花田卓司・山田敏恭・新谷和之・川口成人・伊藤大貴・松井直人・小澤尚平・新名一仁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 453
3. 書名 南北朝武将列伝 北朝編	

1. 著者名 中澤 達哉、三枝 暁子、飯島渉、小沢弘明、海原亮、福土由紀、古谷大輔、加藤陽子、池田嘉郎、石居人也、貴堂嘉之、今津勝紀、小田原琳、大門正克、若尾政希、北條勝貴	4. 発行年 2020年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 コロナの時代の歴史学	

1. 著者名 秋山哲雄、田中大喜、野口華世、高松百香、佐伯智広、前田英之、守田逸人、伊藤瑠美、赤澤春彦、西田友広、木下竜馬、清水亮、遠藤珠紀、大田壮一郎、大藪海、松園潤一朗、石田浩子、高木徳郎、藤本頼人、川戸貴史、三枝暁子、辻浩和、植田真平、伊川健二、荒木和憲、佐藤雄基、黒田智、村木二郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 608
3. 書名 増補改訂新版 日本中世史入門	

1. 著者名 元木泰雄、米澤隼人、下石敬太郎、花田卓司、山岡瞳、山田徹、小原嘉記、伊集守道、村上絢一、佐古愛己、辻浩和、佐伯智広、長村祥知、滑川敦子、勅使河原拓也、佐藤稜介、岩田慎平、山本みなみ、坂口太郎、伊藤啓介、窪田頌	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 424
3. 書名 日本中世の政治と制度	

1. 著者名 滝尻侑貴、亀田俊和、駒見敬祐、大藪海、中根正人、谷口雄太、牡丹健一、花岡康隆、生駒孝臣、花田卓司、萩原大輔、三浦龍昭	4. 発行年 2021年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 415
3. 書名 南北朝武将列伝 南朝編	

1. 著者名 西田友広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松江市歴史まちづくり部史料調査課	5. 総ページ数 96
3. 書名 荘園のしくみと暮らし 松江の中世を探る	

1. 著者名 杉森哲也、三枝暁子、三宅正浩、小倉宗、村和明、岸泰子、牧知宏、西坂靖、渡辺祥子、岩本葉子、吉田ゆり子、西山剛、高木博志、海原亮	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 358
3. 書名 シリーズ三都 京都	

1. 著者名 清水昭博、牟田口章人、鷲森浩幸・花田卓司、新宅賀洋	4. 発行年 2020年
2. 出版社 帝塚山大学出版会	5. 総ページ数 73
3. 書名 奈良学研究的現在	

1. 著者名 高橋典幸、五味文彦、佐藤雄基、榎本渉、西田友広、大塚紀弘、小瀬玄士、遠藤珠紀、川本慎白、中島圭一、岡本真、三枝暁子、呉座勇一、阿部浩一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 中世史講義	

1. 著者名 Juan Carlos Dominguez Nafria,Pablo Gallego Rodriguez,Carlos Perz-Fernandez-Turegano,Hiroaki Kawabata,Michio Kamikawa	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Editorial Thompson-Reuters-Aranzadi, Madrid	5. 総ページ数 524
3. 書名 La Legislacion Militar Historica: Ejercitos, Armadas y Fuerzas y Cuerpos de Seguridad	

1. 著者名 古川順弘・今谷明・河内春人・三谷芳幸・中丸満・久保木圭一・林大樹・川嶋孝幸・十川陽一・樋口健太郎・花田卓司・宮間純一・久禮旦雄・小倉慈司・濱田英毅・葛西太一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 洋泉社	5. 総ページ数 128
3. 書名 洋泉社MOOK 歴史REAL 天皇の日本史	

1. 著者名 永井清繁・高田照世・花田卓司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 帝塚山大学出版会	5. 総ページ数 159
3. 書名 奈良山里の生活図誌	

1. 著者名 春田 直紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 329
3. 書名 日本中世生業史論	

1. 著者名 鈴木岩弓、小林隆、野家啓一、柳原敏昭、鈴木道男、佐倉由泰、後藤齊、水原克敏、戸島喜代志、柳田富美子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 柳田國男と東北大学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「ムラの戸籍簿」研究会ブログ http://muranokosekibo.blog.fc2.com/?msockid=30b248e9ceb811ec9aec8c12a380fc6c 「ムラの戸籍簿」データベース https://drfh.jp/mura/index.php?title=%e3%83%a1%e3%82%a4%e3%83%b3%e3%83%9a%e3%83%bc%e3%82%b8&msockid=30b2b8e7ceb811eca6f59892081ff959</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	服部 光真 (Hattori Mitumasa) (00746498)	公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員 (84601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川端 泰幸 (Kawabata Yasuyuki) (20410970)	大谷大学・文学部・准教授 (34301)	
研究分担者	鎌倉 佐保 (Kamakura Saho) (60468824)	東京都立大学・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	花田 卓司 (Hanada Takuzi) (60584373)	帝塚山大学・文学部・准教授 (34601)	
研究分担者	上川 通夫 (Kamikawa Mitio) (80264703)	愛知県立大学・日本文化学部・教授 (23901)	
研究分担者	西田 友広 (Nisita Tomohiro) (90376640)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大山 喬平 (Oyama Kyohei)		
研究協力者	木村 茂光 (Kimura Sigemitsu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------